屋内釣り堀がオープン

錦鯉４、５百匹、タナゴも千～千５百匹放流

錦鯉の水槽を指さす中村さん

新しい釣り堀が今月１日、オープンした。開店するのは、室内釣り堀「都（みやこ）」（平澤明美社長）。白井第一中学正門の向かいだ。

錦鯉（50㎡）とタナゴ（21㎡）の２つの釣り堀があり、40人が入れるスペース。「タナゴの釣り堀は全国でも数少ない。千から千５百匹は放流します。オープンには間に合わなかったけど、数日中に錦鯉も入る。屋内なので雨の日でも釣りが楽しめますよ。お年寄りとか若い人の癒しの場として利用してもらえれば嬉しいです」（広報担当の中村徳四郎さん）

ちなみに料金は、錦鯉が千５百円、タナゴは千２百円。いずれも２時間でエサ付き。延長は30分毎に３５０円ずつ加算される。貸し竿は３百円。

釣った魚は３匹まで持ち帰り可能で、釣れなくても持ち帰れるという。

持ち帰らない人には、10枚たまると２時間無料になるサービス券が１枚渡される。ラーメンなどの軽食も用意する予定だという。

オープン当日のみ午前９時から午後７時まで。それ以降は午前10時から午後６時まで営業する。年中無休の予定。【問合先】「都」（根45・６、電話０４７・４０７・１３１６）

幸正純治（こうしょうじゅんじ）の提案箱

民間活力の導入で市施設のサービスは？

富士センターにおける「指定管理者制度」導入の議案が、先月18日から再開された市議会で２度にわたって否決されました。指定管理者制度とは、民間の活力導入によりサービスの向上と経費削減を目指したシステム。

市内のＮＰＯ法人も応募していましたが、財務状況や実績に課題があるとされ選定されませんでした。地元の施設ですから、市民の中で意欲的にこの民間活力によるコスト削減が、主に人件費を圧縮することで成り立っているという事実です。

このことは常任委員会でも大きく取り上げられました。

このまま指定管理者制度が導入された場合、現在、福祉センターを管理運営している市の社会福祉協議会（社協）が、再度指定されなくなるという事態も予想されます。

なぜかというと、社協の職員は市職員に準ずる形の給与体系になっているため、もし今回の給与水準での提案となれば、社協は人件費に関してはＮＰＯ法人や民間企業に太刀打ちできなくなるからです。

障害者が働く場である福祉作業所の管理運営は、どこの市町村でも民間に委託していません。コストも大事ですが、質の向上維持こそが最優先されるべきでしょう。

さて、話は変わりますが、白井で昨年生まれた女の子、高橋さくらちゃん（愛称＝さくちゃん）が「拡張型心筋症」を患い、米国での心臓移植のための募金活動が先月３日から始まりました。

目標の１億１７００万円もの金額が本当に集まるものかどうか心配していましたが、１カ月も経たない先月25日に目標額を達成しました。さくちゃんは、翌日２月26日が誕生日でしたから、最高のプレゼントになったことでしょう。

この募金には、白井市をはじめ市内の沢山の団体が協力してくれましたし、私も知り得る限りの人脈を駆使して協力させていただきましたが、本当に嬉しい限りです。予定が早まり、３月９日にも渡米できるようです。

が、１日でも早くドナーが見つかり、手術が成功して元気な姿で帰国することを祈っています。

それとお知らせですが、５月９日に文化会館中ホールで、白井では２回目となる「ちば地域議員フォーラム」を開催します。同フォーラムは近隣に住む地方議員の仲間と開催するもので、今回は我孫子市前市長の福島浩彦さんを迎えて、「市民自治」「二元代表制」に関するフォーラムとなる予定です。

私の政治姿勢を知っていただく絶好の機会ですので、白井市民の皆さんが数多くご来場されることを願っています。

3月8日 世界のダンス&フードフェスティバル

白井市国際交流協会

白井国際交流協会は３月８日（日）、白井駅前センター・レクホールで毎年恒例の「世界のダンス&フード・フェスティバル」を開催する。

めずらしい民族楽器の演奏やアマチュアグループの歌や踊り、世界のケーキやスナックの味比べ、スウィング・ホワイト・ジャズ・オーケストラの生演奏、ダンスとサルサ大会（レッスン付き）など盛り沢山。

アジア、ヨーロッパ、南米、オーストラリア、カナダから大勢の外国人が参加予定だ。午後１時（開場12時半）～４時。参加費３百円。【問合先】白井国際交流協会事務局（電話０４７・４４５・３３４５）

芸能振興会が「春の発表会」

白井市芸能振興会（馬場崎隆二会長）の「春の発表会」が４月19日(日)、文化会館大ホールで開かれる。毎年開催されている恒例の行事で、舞踊、詩吟、民謡などを中心に伝統芸能を披露する。

10時（午前９時半開場）から午後４時頃まで。入場無料。【問合先】電話０４７・４９１・８５００（馬場崎）

地域の仲間でつくりました
しろいリフォーム
Tel(047)492-8009

白井駅前広場を守る！

博人館

柏木雅浩 さん

（白井駅前広場を守る会会長）

白井駅前の高層マンション建設にストップをかけようと柏木さんたち有志が「白井駅前広場を守る会」を結成したのは、平成19年（２００７）６月のことだった。柏木さんは、４人の共同代表を補佐していたが、昨年２月に会長を引き受けた。

柏木さんらの反対運動にもかかわらず、マンション建設は強行されてしまう。が、工事が安全に行われているかどうか監視するため、白井駅地区連絡協議会やＰＴＡと連携して建設会社と工事協定書を結ぶ。「簡単に諦めない」「手強い」という印象を業者側に植えつけた。

昨年８月には建設中のマンション周辺通路で恒例の夏祭りが再開され、大勢の市民らで賑わう。大人然とした柏木さんだが、ユーモアを忘れない。「マンション業者が入居者から苦情を言われないように、マンションの入居案内書には『ときどき賑やかな催し物があるよ』って文言を入れといてくれって申し入れたんですよ」

柏木さんは昭和22年（１９４７）、鳥取県境港市清水町で生まれた。地元の県立境高校から京都の立命館大学に進み、電気工学を専攻する。卒業後は、「大きな会社で歯車の一部になるのが嫌で、小さな会社に就職したかった」のだが、入社したのは大手メーカーの子会社。

「入社早々親会社に出向しろと言われた。コンピューター教育を受けろというわけです。子会社といっても、親会社と一心同体。だから上司に辞表を書いたんです」

上司は辞表を受け取ってくれなかった。だが、やはり大きな会社は肌に合わない。半年後、理想の会社が見つかる。社長１人・アルバイト数人というプログラミング会社。正真正銘の小さい会社だったので、最初から開発責任者として陣頭指揮を取らされた。「もう寝る間も惜しい忙しさ。とにかくやるっきゃな

境港の「フィッシュ大使」も

まけに子会社まで設立したという。「小さな会社」ではなくなったが、もう「辞める」とは言わなかった。それどころか、創業社長の後を受けて２代目社長に。その後、すでに上場していた子会社の役員に就任し、代表取締役を経て昨年３月に退任。

それから４カ月後の７月１日、柏木さんは郷里である境港市のＰＲとイメージアップを行う境港商工会議所の２００８年度「境港フィッシュ大使」に任命された。大使は現在、トランペッターの日野皓正、ジャズ・ヴァイオリニストの寺井尚子ら14名。

「魚と港と妖怪」の３要素をテーマに、官民一体の街おこしに励んでいる境港市の企業誘致・物産観光推進委員も引き受けた。「韓国やロシアに定期船を航行させたり、『水木しげるロード』を目玉に妖怪に頑張ってもらってます」

当然、境港に帰ることが多くなった。「勤めているときは、週末だけのあわただしい帰郷でしたよ。金曜の夜、飛行機に乗り、土・日・月に友人と釣りやゴルフをしたり、飲んだり。で、火曜朝に飛行機で戻って、昼前には会社にいました。去年は３回も帰郷したけど、ヒマ人になったので全部１月ほどの滞在でした」

東京・江東区から白井・堀込に移り住んで30年近い。白井も境港に負けず劣らず愛着のある街となった。職場結婚の芳枝夫人との間に２男１女。長女が７月に初孫をプレゼントしてくれる予定だ。